

The Nara Anesth Times

NEWS LETTER Vol. 6

奈良県立医科大学 麻酔科学教室 情報誌

Nara Medical University Department of Anesthesiology

発行所：奈良県立医科大学 麻酔科医局 〒634-8522 奈良県橿原市四条町840

TEL: 0744-29-8902 FAX: 0744-23-9741 HP: <http://www.naramed-u.ac.jp/anes/>

■奈良医大麻酔科の仲間へ

奈良県立医科大学麻酔科教授 古家 仁

周知のようにこの3月末で教授を退職し、奈良県立医科大学附属病院の病院長に就任します。この経緯と、これからの奈良医大麻酔科の医局員に望みたいことをニュースレターで伝えたいと思います。

なぜ教授の任期途中で病院長になろうと思ったのか。いろいろな理由があります。もちろん現病院長の推薦があったということが私の気持ちを動かした一番大きい理由になるでしょう。病院長が私を押し出した理由の一つに麻酔科医は組織のまとめ役としての能力を仕事柄備えている、という考えがあります。私もそう思います。日頃から中央部門で調整役をしていれば自ずとその能力は身についてきます。しかし単にそれだけでは病院長というようなストレスフルなそして責任だけ重い職に就こうとは思いません。私はもともと麻酔が好きで麻酔科医になりましたから、教授の職を辞した後は医局員のいる民間の病院で麻酔をしている方が気楽だし楽しいと思っていました。それならなぜ教授を辞めて病院長になったのか。

今までの経緯も含めて私の気持ちを書いておきます。私が国立循環器病センターから奈良医大に来たのは1985年、昭和60年のことです。その頃奈良医大の麻酔科医局員は17名でした。それも畔政和先生（前国立循環器病センター麻酔科、手術部長）が1982年に助教授で赴任してからの3年間で13名増えたところですから、奈良県内の麻酔科事情は惨憺たる状況であったと推測されます。そこに畔先生が来られ、畔先生から応援を頼まれて私が来たわけですが。私は大阪大学、大阪通信病院、国立循環器病センターと割合麻酔科医が働きやすい環境の中で麻酔をしていましたから、奈良医大に来て麻酔科医の働きにくい環境と、麻酔科医の地位の低さに歴然としました。そのためそれからの私の役割は麻酔科医の働きやすい環境を作ること、麻酔科医の地位を上げること、そのために働いてきたと思います。

麻酔科医が働きやすくなるためにはまず人数を増やすことが一番と考えましたし、麻酔の魅力を知ってもらえば麻酔科医は増えていくと考え多くの学生を麻酔科へ勧誘しました。もちろん勧誘の基本は麻酔に興味を持っていることでした。そして、少しずつ麻酔科医が増えていきました。多分現在までに一旦医局に入った医師の数は退局者を含めて100名は越えています（現在の医局員は80名です）。それでも現在でもまだまだ麻酔科医数は十分とは言えません。もっと必要です。

もう一つは、外科系医師に麻酔科医を認めさせることでした。そのためには手術に関して麻酔科医がおかしいと思うことは外科医に対して主張する必要がある、と考えて行動しました。麻酔科医がそう感じるときは患者の不利益になっていることが多く、そして外科医とぶつかっても麻酔

科医が正しいと信じる信念を通すことは、患者のためだけでなく麻酔科医を認めさせるためにも必要であると思います。手術室の入り口で教授が入ってくるのを待ちうけて文句を言ったこともたびたびあります。手術適応に関して外科医と言い合いになったこともあります。麻酔科医は、手術を受けるあるいは受けている患者が不利益を受けないように患者の代弁者として患者に代わって主張する役割も担っているわけです。

その後1995年、平成7年に麻酔科教授に就任しました。その頃には麻酔科医が増え、ある程度大きな病院では麻酔科医が常駐するようになり、麻酔科医が麻酔をするのがあたりまえ、という雰囲気が奈良医大や奈良県内に出だしてしまいましたが、現在では、奈良県内の多くの病院や外科系医師はそれを認めていたと思っていました。ところが昨年、麻酔の研修にきた研修医が外科医としてはバイトにいけないため麻酔のバイトをするために研修に来た、と言っているのを聞いて愕然としたわけですが。麻酔科医が奈良県内の麻酔に十分対応できていないのが元にあるのですが、それ以外に外科医は麻酔を軽くみている、ということを感じました。まだまだ麻酔を周知させ、麻酔科医の必要性を認識させる必要があると思いました。その方法としてすべての麻酔は麻酔科医が責任を持つ、という現在私が進めている周術期管理チームの基本の考え方を広めて、少なくとも奈良県内の麻酔は麻酔科医が責任を持つべきだと思います。もう一つが、県、大学、県内の病院などに意見を言える存在になり、奈良県内の外科系医師の分布や麻酔科医の勤務状況を変えさせることに尽力することです。そう思っていた頃に病院長の話が来ました。私が教授として退官まで残っていたとしても現状を変えるには時間的にも不十分です。しかし、管理職、それも奈良県内でもかなり重要な地位である奈良医大の病院長であれば、教授でいるより多くの場面で意見を言うことができます。麻酔科医が望む奈良県内の病院状況を作る第一歩になり得ると考えます。

もう一つ病院長になってやりたいことがあります。それは、麻酔をしていれば実感することですが、外科医の質の評価です。奈良医大だけでなく多くの奈良県下の病院の悪い点の一つとして医局制度の下に医療の質が二の次にされて手術されていることです。またこういった質を考えない医療は外科系だけでなく内科系でも行われています。これを出来れば改善するための質の評価をしたい、そのためのシステム作りを手をつけたいという気持ちがあります。そして、これは外科医だけでなく、内科医も、もちろん麻酔科医も、すべての医療従事者の質が評価される、そのようなシステムを作るべきだと思っています。

今年の大学の年頭の挨拶や奈良医大の新年会の挨拶で何か新しいことを始めてください、と言いました。この考えは昨年からのあったのですが、昨年は漠然とした気持ちで何かしてみたい、という程度でした。しかし昨年末から病院

長の件が浮上し、今年の私が始める新しいことは病院長の選挙に出る、ということになりました。私はそういうことになりましたが、医局員は別に新しい世界を作るのではなく、それぞれがもう一度自分の生き方を見直す機会を持って欲しいと思います。自分の人生にたいする考え方、生き方、それぞれいろいろあると思います。自分のために生きることも大切です。家族のために生きるのも大切です。同じように仲間のために何かできることをする、ということも大切です。奈良医大に来てから私の周りには多くの仲間がいました。他の仲間のことを常に考えている人たちがかりでした。素晴らしい仲間が奈良医大の麻酔科には一杯います。この仲間のために自分ができることをする。これはなにも意識してすることではなくて医局員の一人として働くことでできます。私はこのようにして築き上げられた人間関係は自分の人生の中で一番の宝物だと思っています。気楽に話せる仲間がいる。これほど素晴らしい人生はないと思います。この仲間の絆をもっともっと広げていってください。

平成24年奈良医大麻酔科医局・関連病院会総会の報告

奈良県立医科大学麻酔科医局長 川口昌彦

平成24年1月14日（土曜日）に宗右衛門町のホテルメトロThe21にて麻酔科医局・関連病院会総会と新年会が開催されました。今回は北川副医局長に場所の設定や運営など行っていただきました。場所的には使いやすくてなかなか好評であったと思います。今回の総会では、人事経過及び人事案に加え、ママ麻酔科医制の改正、奈良麻酔研修ネットワークの改正、シニア麻酔科医制の議論がなされました。入局から墓場までをモットーに、教育、ママ麻酔科医支援、シニア麻酔科医支援という協力体制を構築していきたいと考えております。シニア麻酔科医規約は来年の総会での制定を目標にご意見いただければと思います。主な変更点は、1) ママ麻酔科医制での常勤を週4日以上を基本としたこと、2) 奈良麻酔研修ネットワークで研修指定を受けた麻酔科関連病院では後期研修生の入局が必須ではなくなったこと、3) シニア麻酔科医規約のたたき台を作成したこと、などです。いずれの制度も医局に属する先生がより安全により安心して働ける環境を作るための、医局員のためのシステムであると御理解いただければと思います。

〈今後の主な予定〉

以下のように、新病院への移転などが多数予定されております。いずれの施設も手術件数増加などに伴う、増員などの対応が必要になっております。

- 市立奈良病院：平成24年12月より新病院開設予定
手術室増加と救急集中治療部門の増設。
- 暁明館病院：平成25年4月に移転予定
- ベルランド総合病院：平成26年5月より新病院開設予定
- 天理よろづ相談所病院：平成26年1月より急性期病棟開設予定
- 南和地区急性期病院：平成27年度中に新病院開設予定
県立五條病院への常勤再開へ
- 清恵会病院：平成27年に移転予定。
- 県立奈良病院：平成28年に新病院開設予定
- 平成記念病院の増員：ママ麻酔科医の勤務

〈人事経過報告及び人事予定〉

	(前施設)	(後施設)
<u>平成23年10月</u>		
岩田ま先生	市奈良	県奈良
藤原先生	大学	市奈良
新城先生	母子	大学
寺田先生	天理	母子
西村絢先生	三室	天理
福本先生	県奈良	三室
<u>平成24年1月</u>		
葛本先生	三室	県奈良
田山先生	県奈良	JR
佐々岡先生	JR	三室
内藤先生	大学	県奈良
<u>平成24年2月</u>		
会見先生	大学	産育休
<u>平成24年4月</u>		
西和田忠先生	黒滝	大学
蓮輪先生	大学	国循
西和田史子先生	育休	大学
池田先生	県奈良	大学
位田先生	大学	県奈良
熱田先生	(入局)	大学
植村先生	(入局)	大学
椿先生	(入局)	大学
木下先生	大学ペイン	岡山大 (2年のペイン研修終了)
八反丸先生	慈恵医大	大学 (ペインセンターへ国内留学)
若山先生	長野日赤	大学 (ペインセンターへ国内留学)

〈ママ麻酔科医制度の改訂〉

本制度は、ママ麻酔科医の麻酔認定医および麻酔専門医の取得や社会復帰を支援するプログラムである。希望があれば、以下の内容により勤務内容を支援することが可能。ただし、可能な限りフル勤務（延長や当直含む）をすることが望ましい。これは、重症症例や緊急症例を経験することで、麻酔専門医として必要な麻酔の知識や技能を習得することができるからである。

- 1.麻酔科認定医取得まで：基本的にフル勤務（延長や当直含む）
ただし、出産後1年までは週3日勤務などの移行期を設けることは可能。重症例や緊急手術の麻酔経験が不十分な場合は、麻酔認定医取得までの期間の延長も考慮される。
- 2.麻酔科専門医取得まで：基本的に週5日勤務
ただし、出産後1年までは週3日勤務などの移行期を設けることは可能。また、病院または周辺で24時間体制などの保育所などが整備されていない場合、当直は免除される。
基本的には17時30分で勤務は終了するが、重症例や緊急症例などを経験できる体勢をとること（少なくとも週1回は延長ありなど）。
重症例や緊急手術の麻酔経験が不十分な場合は、麻酔専門医取得までの期間の延長や非承認の場合も考慮される。
- 3.麻酔科専門医取得後
週35日の勤務を選択できる。基本的には8:15-17:30での勤務。当直は免除される。
関連病院での常勤職員を希望する場合は週4日以上勤務を基本とする。ただし、県の子育て支援プログラムなどの適応者は、その規定に従う。
関連病院での週3日以下の勤務希望者は嘱託職員などの契約を基本とする。

(平成24年1月14日改訂)

〈奈良麻酔研修ネットワーク： 奈良医大・関連病院 麻酔専門医育成コース〉

目的：奈良県立医科大学麻酔科及びその関連施設における麻酔科専門医の育成を目的とする。

対象：卒後3年目以降（初期研修修了者）の医師で麻酔科専門医取得を目的とするもの

期間：麻酔科専門医取得まで（4-6年程度）

1) 奈良医大麻酔科への入局の場合

奈良医大麻酔科への入局者は以下の奈良県内及び県外の関連施設で研修を受けることができる。研修病院は希望を優先するが、希望が重複する場合は、調整委員会にて勤務調整を行う。原則的に各関連病院での勤務は1-2年程度とするが、各施設の長と調整委員会での承認があれば、短期や長期的な研修も可能とする。専門医取得後は希望に応じ、奈良医大関連施設への就職を斡旋する。ただし、希望が重複する場合は奈良医大麻酔科人事委員会にて調整をおこなう。

奈良県研修施設

奈良県立医科大学附属病院・天理よろづ相談所病院
県立奈良病院・県立三室病院・市立奈良病院

奈良県外関連研修施設

国立循環器病センター・母子保健センター
ベルランド総合病院・東大阪市立総合病院
その他の希望する研修病院

2) 関連施設での研修を主とする場合

奈良医大麻酔科の関連病院（ただし、認定が必要*）での研修を主とする場合は、希望に応じその施設での研修期間を調整できる。関連施設での研修を主とするものは希望により、奈良県立医科大学での研修を受けることができる。麻酔科専門医取得までは奈良医大麻酔科への入局は必要条件ではなく、研修している関連施設の麻酔科の定員に空きがある場合は、その施設の長と奈良医大麻酔科人事委員会の承認があれば、本研修システム修了者の就職も可能とする。ただし、定員に限りがある場合は、奈良医大麻酔科へ入局した者の就職を優先する場合がある。

尚、麻酔医大・関連病院麻酔専門医育成コースへの参加者はそのコースに関わらず、奈良医大麻酔科医局関連病院構成員に関連した以下の待遇を受けることができる。

- 1) 麻酔科ニュースレターの配布
- 2) 奈良医大麻酔科関連の研修会・会合の情報提供をうけ、参加することができる。

また、関連病院での研修者又は就職者が奈良医大麻酔科医局関連病院構成員としての入会を希望する場合は、上記の待遇に加え、医局総会への出席や外勤の斡旋、文献検索や文献集収のサービスなども受けることが可能となる。

*現時点での認定関連病院：天理よろづ相談所病院、ベルランド総合病院。

〈奈良県立医科大学麻酔科医局・関連病院 シニア麻酔科医規約（案）〉

基本指針：奈良県立医科大学麻酔科医局・関連病院の構成員として、長年にわたり貢献してきた医師が、高齢化及び定年後も安心して生活を営める環境を構築する。

関連規約

- 1) 定年、健康上の理由による早期退職、または奈良県立医科大学麻酔科人事委員会にて承認されたもの。
- 2) 基本的には労働が可能であれば、勤務していた病院又は他の関連病院での常勤管理職、常勤職員または週3-5日の嘱託職員としての勤務などを斡旋する。
- 3) 関連病院外であっても、常勤管理職、常勤職員、嘱託職員などの勤務先を確保できる場合は、その施設を構成員が勤務する関連または準関連施設とする。
- 4) 常勤および嘱託の職の有無にかかわらず、週1-2日の非常勤での出張の斡旋を可能とする。
- 5) 対象者は、各関連病院の部長又は責任者の指示に従わなくてはならない。部長又は責任者の指示に従わない場合は、その受け入れを拒否することができる。
- 6) 現役の構成員は、全構成員の長期的な生活保障の観点から、シニア麻酔科医の受け入れに協力すること。

（平成24年1月14日）

シニア麻酔科医規約は来年度に制定予定ですので、ご意見いただければ幸いです。

【第59回日本麻酔科学会準備状況

奈良県立医科大学 麻酔科 井上聡己

皆さんいかがお過ごしですか？ご存じのように6月7日から9日まで麻酔科学会の総会が神戸で開催されます。今年は当教室主催で古家先生が会長をされ、私もこの学術集会実行委員のメンバーとして参加させていただいております。よく「準備大変だろう」と声をかけていただくのですが、独立した事務局と各学術委員会が企画雑務をしていただきほとんどすることがありません。総会までに5-6回会議がありますがほとんどは出来上がった企画の確認で終わります。国内外からの招待講演、特別講演などは各委員会から推薦があり推薦の順位から古家先生が選ばれます。その依頼等は事務局がしてくれました。座長なども委員会からの推薦で事務局が依頼状を送ります。しかし全く主催教室の権限がないかというところというわけではなく、会長企画やシンポジウムの枠があり、これは古家先生が企画調整されます。それらのプログラムの調整は事務局がやってくれますので、ここでも私の出る幕はありません。小さい研究会などを主催するほうがすべて1人で企画し、座長、特別講演依頼、タイムスケジュールおよび抄録集の作成、企業協賛の依頼、収支報告を作成しなければならず大変です。やることはあまりありませんが会議に出ると勉強になることがあります。最近の興味深い会議は演題採否の件でした。1000題以上の演題応募があり採否のボーダー上の演題を検討する会



医局総会・新年会での集合写真

でした。結果的におよそ75%の採択率でした。一応3人の査読者が5段階で採点し評価が分かれたもしくは倫理的問題、統計学的問題があるものが検討対象でした。学会の方針として興味深い研究であっても倫理委員会を通していないものや同意のないもの、統計学的手法が記載されていないものはその時点で採用しないことが確認されました。今後この流れは関連学会に広がっていくものと思われます。逆に学会指針にのっとればよほどのことがない限り採用されるといった感じです。各委員会のメンバー長は100-300程の抄録に目を通し最終決定をしなければならぬそうです。すべてボランティアでやっていただいております。頭の下がる思いでした。さらにこれだけの仕事であるにもかかわらず、

さらにブラッシュアップするために今年度の問題点と対策を真摯に検討されておりました。この会議は勉強になるだけでなく、学会運営してくださっている委員会のメンバーの魅力に触れる非常にいい機会でした。これから学会が始まるにつれ医局の皆さんにご迷惑をかけることがあると思います。既に急な座長代行などお願いしている先生方もおられます。学会が無事大成功するように皆様何卒よろしく願いいたします。

日本麻酔科学会
第59回学術集会のポスター

あとがき：学会ポスターの基本デザインはベルランド病院の栗田先生がしてくれました。奈良大和三山がテーマです。

■麻酔アシスタント養成中

奈良県立医科大学麻酔科 松成泰典

2010年5月より、ME川西、杉本の両名が麻酔科に赴任しました。目的は奈良医大麻酔科において麻酔アシスタントになってもらうためです。このことは、日本麻酔科学会が提唱した「周術期管理チームプロジェクト」に端を発します。「周術期管理チーム」プロジェクトは、新しい診療単位を創設するのではなく、診療に参加している全医療者（手術室看護師、病院薬剤師、臨床工学技士）が、本来の業務を麻酔科医とともに遂行できるよう、知識や理解のボトムアップを目指している”そうです。事実、麻酔業務に対するコメディカルの理解は施設間でかなり差があるように思います。我々が業務をやりやすくするには、身近なコメディカルを教育することが不可欠だと思いますが、大学病院では人の入れ替わりが激しいことと、勤務している人間が多いことから、関連部署全体の教育を行ってもなかなか定着しにくい、また教育内容の均一化が難しいという問題があります。

今回我々が養成している麻酔アシスタントは、少数精鋭で教育を行い、われわれ麻酔科医と共通意思をもって動ける人材を育成することを目的としました。対象としてまず思い浮かぶのは看護師でしたが、もともと慢性的に人手不足のうえに7対1看護の導入で手術室から病棟へ看護師を吸い上げられてしまっており、看護師を特別に麻酔科管理の

下に置くことは難しい状況でした。そこで、萱島技師長と相談しME業務を拡大する一環として、麻酔アシスタント候補としてMEを採用する方針となりました。また、MEさんは看護師と違って部門配属が可能で異動をなくせるため、教育を行いやすいというメリットもありました。

我々にとっても初めての試みなので、お互いに手探りの状態から教育が始まりました。ちょうど同時期に周術期管理チームマニュアルが刊行されたため、このテキストをベースとして教育カリキュラムを組みました。ただ、MEさんは我々や看護師と比較して学生時代の生理学・薬理学のカリキュラムがかなり少ないため、講義だけでなく、一緒に症例をこなしていくスタッフの先生方が必要に応じて現場で教育して下さることで補いました。1年の教育期間を経て2011年5月に口答試験・筆記試験・実技試験の審査を行い（実技試験は日常臨床業務から評価を行いました）、院内の認定を受けています。

現在麻酔アシスタントが行っている業務は、麻酔の準備（挿管チューブ・薬剤の準備、麻酔器の始業点検、点滴セットの組み立て、気管支ファイバーのセッティングなど）、術中のモニタリング・記録・薬剤の調整（これらとPHSを携帯してもらうことで、安定している症例では他の部屋のサポートに回ったり食事交代を行ったりすることが可能となりました）、術後申し送り用紙の記入などを行っていただいています。これらの中には、臨床業務を行う上で医師が行う必要のないものも多く含まれるため、非常に我々の業務軽減を図ることができました。ある先生は“川西・杉本と一緒にいたら心外の緊急手術がきてもストレスに感じない”と仰っていたくらいです。また、麻酔器・超音波機器・気管支ファイバー・電子カルテなどの麻酔関連機器のメンテナンスもおこなってもらっており、この点においても、我々が麻酔業務に専念するのに欠かせない存在となっています。

現在はME杉田・塩田の2名が認定に向けて準備中で、将来的には6人体制になる予定です。



奈良医大麻酔科MEの4名

これからさらに奈良医大麻酔科としての周術期管理チームを充実させ、よりよい麻酔業務を確立していきたいと思っています。

■清恵会の近況と今後

清恵会病院 麻酔科部長兼手術部部長 梁 宗哲

医療法人清恵会は1970年開院の堺市堺区、駅で言えばJR阪和線および南海高野線の三国ヶ丘駅に程近いところに在る276床（内31床は回復期リハビリ病棟）の急性期型病院であります。現在の手術室は1988年に東館4階の看護学校の体育館を改築して作られました。清恵会に來られた先生方はお気づきでしょうが、麻酔医室の窓が中途半端な位置にいたり、廊下の頭上に天窗（老朽化し大雨の日には雨漏りがする）があったりするのはこのためです。麻酔科の常勤を奈良医大から出す様になったのは1989年に謝先生が勤務されてからであります（それ以前は伝説の麻酔医故キタジマ先生が居られた）。以降、交代を繰り返し一時期不在の時期もありましたが、2005年より勤務している私、梁まで継

続しています。手術室を利用するのは外科、整形外科、脳外科、形成外科、婦人科（産科は休診中）、眼科の6科で麻酔科管理件数は2006年1007件（内緊急157件）から2011年1104件（同157件）と増加傾向にあります。この件数を常勤非常勤の2～3名の麻酔科医が22名の看護スタッフ（学生、パート含む）の協力のもとで対処しています。その他初期研修医1～2名が3ヶ月ローテで廻ってきます。このような清恵会ですが10年以上の紆余曲折を経て3年後の2015年をめどに現在の市立堺病院（堺市堺区安井町、最寄は南海高野線堺東駅、阪神高速堺線堺出入口）に移転することが決まりました。これは市立堺病院が移転することになり昨秋行われた公募で医療法人清恵会が選定された為であります。運用等詳細は不明ですが現時点で公表されていることを記しますと、15ある診療科の継続、休診中の泌尿器科、産科の再開、看護師、準看護師と理学療法士、放射線技師を養成する医療専門学校の移転などを予定しています。病院側は経営改善を移転の必須条件とし、そのために手術件数を増やすことを目標に掲げています。本年4月以降外科医の顔ぶれが代わることも相まって忙しくなることが予想されますので今後ともより一層のご支援をよろしくお願いいたします。



清恵会病院の手術場スタッフ

大阪暁明館病院のご紹介

大阪暁明館病院麻酔科 下田孝司

昨年（2011年）7月より、医局人事にて暁明館（ギョウメイカン）に赴任いたしました。

他の関連施設への増員も必要とされるこの時期に、医局がこの病院の新規開設に至った最大の理由は、2013年4月に移転・新築されることにあります。新病院では手術室が現在の3室から5室に増え、産婦人科、耳鼻科、脳外科、小児科などが新設されるほか、各科も増員となり手術数は年間2000件を目標とするそうです。場所は西九条のまさに駅前へ移転となり、近鉄難波からつながった阪神線のみならずJRも利用することができ、奈良、大阪各方面からのアクセス良好です。なにより仕事帰りに電車で5分でUSJに気軽に行くことができます、私は興味ないけど。

ひるがえって現状ですが、建物はボロい、外科医もスタッフも手術も少ない、医療レベルは高くない、手術申し込みは無政府状態、新病院移転というのいろんなことがノープラン・・・という状況に、赴任当初は「この病院、腐ってる」と毎日心が折れそうでした。私が大学から左遷されてここに来たと本気で信じてる看護師もいました。どうにもひどい状況だったので、まず手術室運営委員会を立ち上げ、手術室利用の秩序を徐々に作り、術前・術後診察をきちりやって各科の信頼を得て、なんとか日常業務に関しては統制が取れて軌道に乗りつつあります。また新病院の手術室も具体的な細部のプランは話が進んでなかったので、設計会社や医療器械の業者、事務方と毎日のように直接交渉して、診察室を手術室内に設ける、麻酔科室を広く取る、部門システム・映像システム完備など麻酔科（オレ）の要望がほぼ満たされたものとすることができました。そんな中で他部署のプランの不備も多々判明し、相談に乗ったり事務方にあれこれ注文をつけてるうちに、なんといきなり新病院の予算委員会の委員長をおおせつかってしまい

エーザイの主な 心疾患治療剤

薬価基準収載

注射剤

処方せん医薬品*

0.05%硝酸イソソルビドシリンジ製剤

ニトロール® 注 5mg シリンジ
持続静注 25mg シリンジ

処方せん医薬品*

0.05%硝酸イソソルビド点滴専用製剤

ニトロール® 点滴静注 50mg バッグ
点滴静注 100mg バッグ

処方せん医薬品*

急性心不全治療剤

ゴアテック® 注 5mg

〈オルプリノン塩酸塩水和物製剤〉

処方せん医薬品*

急性心不全治療剤

ゴアテック® 注 SB9 mg

〈オルプリノン塩酸塩水和物希釈製剤〉

生物由来製品・処方せん医薬品*

血栓溶解剤

クリアクター® 静注用 40万
80万
160万

〈モンテプラゼ（遺伝子組換え）製剤〉

劇薬・処方せん医薬品*

頻脈性不整脈治療剤

タンボコール® 静注 50mg

〈フレカイニド酢酸塩製剤〉

劇薬・処方せん医薬品*

Ca⁺⁺拮抗性不整脈治療剤

ワソラン® 静注 5mg

〈ペラバミル塩酸塩製剤〉

※注意—医師等の処方せんにより使用すること

製造販売元 

エーザイ株式会社

東京都文京区小石川4-6-10

商品情報お問い合わせ先：お客様ホットライン

☎ 0120-419-497 9～18時（土、日、祝日 9～17時）

●効能・効果、用法・用量及び警告・禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

CV1009M11

ました。十億単位のお金の配分に携わるのは初めてです、当たり前ですが。

残念ながら私が理想とする麻酔業務での充実とはまだ違いますが、入局して以来「もっとも働いている」時期を過ごしています。現在は手術以外の業務が忙しく、麻酔の方は週一回の大学からの応援の力を借りてなんとかこなせておりますが、次第に手術枠も増加するため医局に増員をお願いしている次第です。各施設で将来増員が必要との話が出ている折、恐縮ではありますが、こちらは来年の4月ともう切実なんです。新病院で、私とともに常勤として快適で楽しい職場環境を作るのに力を貸していただける方、お待ちしております。託児所完備、ママさんも大丈夫です。どうか医局員の皆様のご協力をよろしくお願いします。



大阪堺明館の新病院予定図

■麻酔科第4研究室より

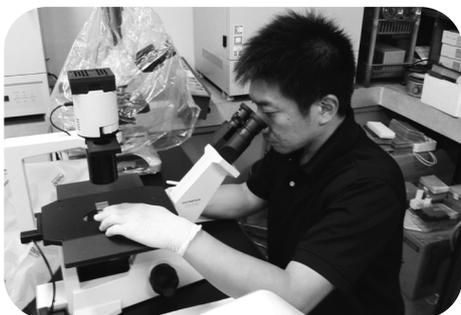
奈良県立医科大学麻酔科 瓦口至孝

われわれは麻酔科第4研究室に新たな研究設備を整えまして、培養細胞を用いた実験を行っております。現在の構成メンバーは“社長”こと野村先生と4月から大学院修士課程に入学する臨床工学技士の杉本君の計3名で、臨床で疲れた老体に鞭を打ちつつも無理のない範囲で頑張っています。

ご存知のように、奈良医大麻酔科では動物を用いた基礎研究および臨床研究が主流でした。ここで“培養細胞”という逆行している感も否めません。また、研究費もかかりますし明日の臨床に役立てることは非常に難しいです。しかし、細胞を相手にしますので比較的安定したデータを取ることが可能で、倫理的や技術的な意味でヒトや動物では出来ない研究も出来ます。「動物実験なんてかわいそうで出来ない」という人にもピッタリですし、さらに副産物として様々な医学的教養も身に付きます。

現時点で構成員の研究テーマのキーワードは“癌”です。日ごろ癌の手術麻酔に従事することが多いかと思いますが、意外と癌について知らないことが多いです。改めて“癌とは何か”を勉強し直すのは面白いですし、実際に癌細胞の培養は超簡単なため初めてでも楽勝です（社長談）。

最後に責任者として、麻酔科の研究費や血税を使う事になりますので臨床的に意義のある研究を目標としていますが、手間と結果のバランスを重視しています。各種専門医取得のために学会発表や論文が必要な方も含めて、是非やってみたいと思われる方はご連絡ください。



癌の培養細胞の研究を行っている野村先生

■VIVA! おひとり様 - 「蕎麦屋で一献」

奈良県立医科大学麻酔科 北川和彦

元来、関西にはうどん文化が浸透しており、蕎麦は丼ぶり屋のセットメニューで「おそばも選べます」的な扱いにしか受けていなかったように思います。もちろん饅頭も美味しいのですが、日本酒に合わせるとなるとやはり蕎麦に限る。蕎麦自体の香り、キリッとした付けつゆが酒を呼ぶし、出し巻き、焼き味噌といった蕎麦屋のアテ（そば前、という）もなんとも楽しい。近年、大阪でもそんな蕎麦屋遊びのできる、いわゆる「三たて（挽きたて、打ちたて、茹でたて）」を供する店が増えてきました。飲兵衛どうしの「大阪市の蕎麦屋と言えば何処？」という問答には、凡愚（大正）、なにわ翁（西天満）といった大御所から、たかま（天六）、まき埜（福島）、からに（福島）、最近よく聞く、masa（靱公園）などが挙がってくると思いますが、今回ご紹介する谷六の二店もそんな蕎麦屋談議には必ず名を連ねる人気店です。

そば切り 蔦屋

古民家を改装して作られたお店で、使われている器も古めのもので味わい深い。まずは、豆皿三種（800円）で一杯。これが実によくできています。豆腐、野菜、干物などが小さなお皿に盛られていて、よく酒にあう。素材を生かす味付けに、なんとなく「粹」を感じます。私が通いだした頃はワンコインだったのですが、今でも十分価値あり。豆皿三種、鯖寿司2カン（400円）、十割の手挽きそば（900円）を一枚半（半枚増し350円）に酒二合が私の定番。休日昼下がりの至福です。二八の盛りそばは800円、鴨汁そば1200円。予約はできませんので、営業時間はいつも待ちの列ができています。夜はこの手のお店らしく、お蕎麦無くなり次第終了パターン。店前の公園に桜が咲き誇る頃は特に込み合いますので、開店10分前には並んでおきたいところです。

そば切り 文目堂

「あやめどう」と読みます。こちらは3階建ての古い家屋を改装してあります。重厚な外観、板張りの天井にはアンティークな照明がよく似合う、違い棚の埋め込まれた半個室など、以前はかなりの大金持ちの邸宅だったのでしょ



そば切り 文目堂

う。店内は結構広く、「蔦屋さん、入れなければ、文目堂」な人も多いはず(?) 器は現代作家さんのものが多くいい感じ。そば前も定番から、莫久来（ばくらい、600円）、鴨の塩焼き（1000円）などと豊富です。大豆のえび煮（100円）でちびちびやりながら、お蕎麦は何にするか考えましょう。こちら冬場はかけそばもあります。鴨なんばん1500円。ざるそば（800円）は細切りと蕎麦殻ごと引いた粗挽きの二種。空間もご馳走なのだと改めて実感できます。

そば切り 蔦屋

大阪市中央区久宝寺町2-7-14 TEL06-6764-7074

そば切り 文目堂

大阪市中央区安堂寺町2-2-26 TEL06-7504-5260

販売名 フロートラック センサー
承認番号 21700BZY00348



FloTrac

フロートラック センサー

SV

一回拍出量

SVV

一回拍出量
変化

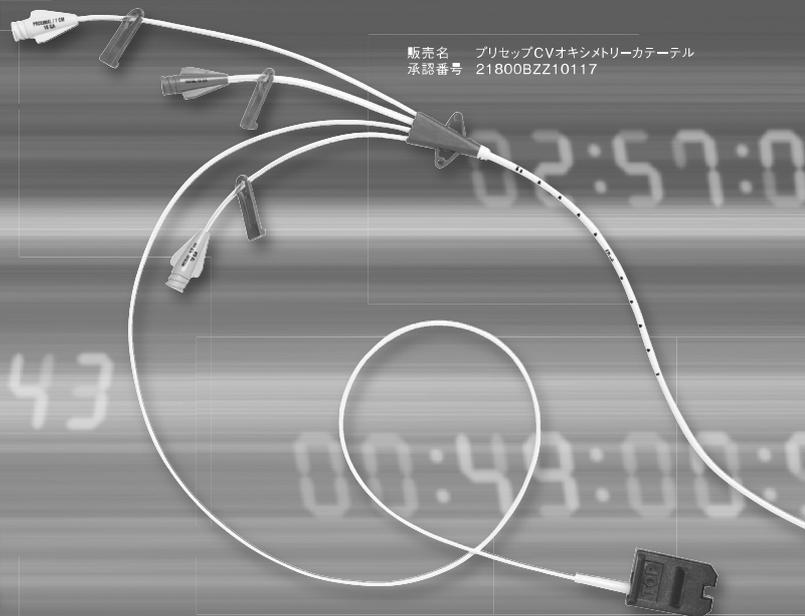
CO

動脈圧
心拍出量

SVR

体血管
抵抗

販売名 プリセップCVオキシメトリーカテーテル
承認番号 21800BZZ10117



PreSep

プリセップCVオキシメトリーカテーテル

ScvO₂

中心静脈血
酸素飽和度

CVP

中心静脈圧

Vigileo Monitor

ビジレオ モニター



販売名 ビジレオ モニター
承認番号 21700BZY00328

一刻を争う医療現場に 適切な判断を、最適なタイミングで。

ショックや重症外傷などの急性期における血行動態を速やかに把握し、最適な患者管理を可能にします。
予後改善の鍵を握る、エドワーズが提供する低侵襲モニタリングシステムです。

製造販売元 エドワーズライフサイエンス株式会社

本社：東京都新宿区西新宿6丁目10番1号 Tel.03-6894-0500

edwards.com/jp

© 2009 Edwards Lifesciences Limited. All rights reserved. EW-2009-029



Edwards

新入局者紹介

熱田 淳



はじめまして。H18年卒の熱田と申します。薬学部を卒業後に製薬会社で5年ほど社員をしてから、福井大学医学部に進みました。現在いわゆるアラフォーですが、不惑どころか惑いまくりの人生を堪能しています。キャラとしてはゆるい方だと思います。「人に優しく自分にはもっと優しく」を心がけています。だいたいはじめの半年はA型っぽく見えると言われますが、その後B型であることがばれるようです。いろんなことに興味をもってチャレンジしていきたいと思っています。ご指導よろしくお願ひいたします。

植村景子



平成20年奈良医大卒の植村景子と申します。東大阪市内総合病院で初期研修を2年間した後、同病院の麻酔科で2年間後期研修をしました。この春からは奈良医大入局にて、残りの後期研修をさせていただきます。大学時代は合気道部とギター部に所属していました。趣味は只今検索中ですが、今年中にゴルフを始める予定

(未)にしています。至らない点ばかりでいろいろとご迷惑をおかけしますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

椿 康輔



本年度より麻酔科に入局させていただきました椿康輔と申します。

東京育ちで未だに東京弁が抜けません。高校と大学では陸上部で短距離を専門にしていました。安定した術中管理を行えるように一例一例を大切に毎日コツコツ頑張りたいと思っています。将来はICU管理ができる麻酔科医を目標にしています。至らないところが多々あると思いますが、よろしくお願ひいたします。

編集後記

ニュースレターも第6刊となりました。古家先生が日本麻酔科学会の会長をされるとともに、病院長にも就任されました。先輩方の御尽力で奈良医大麻酔科も大きく前進してきたと思います。今後も、時代のニーズに応じ変化し続けるよう、柔軟な対応をしていきたいと思っています。ご意見やアイデアなどありましたらご一報お願ひいたします。
(文責：川口昌彦)

ニュースレター編集委員：川口、井上、下川、渡邊、木本



短時間作用型 β_1 選択的遮断剤

劇薬
処方せん医薬品^(注)

注射用 **オノアクト[®]50**

注射用ランジオロール塩酸塩

ONOACT[®]

(注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること。

薬価基準収載

資料請求先



小野薬品工業株式会社

〒541-8564 大阪市中央区久太郎町1丁目8番2号

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等、
詳細は製品添付文書をご参照ください。

090601